

2026年3月期第3四半期

決 | 算 | 説 | 明 | 資 | 料

朝日印刷株式会社

証券コード：3951

2026年2月9日



## 目次

- 1 — 朝日印刷について
- 2 — 2026年3月期第3四半期 決算概要
- 3 — TOPICS
- 4 — 2026年3月期 業績予想・成長戦略
- 5 — 企業価値の向上に向けて

— 1 —

朝日印刷について



商号	朝日印刷株式会社
所在地	富山県富山市
創業	1872年（明治5年）
設立	1946年5月（昭和21年）
上場市場	東証スタンダード（証券コード：3951）
資本金	2,228百万円
従業員数	1,858名（2025年9月現在）



## 朝日印刷グループの経営理念

**お客様本位を基本とし、  
企業の永続成長と従業員の幸福とが一致する経営を目指します。**

## 朝日印刷グループの使命と目指す姿

### Mission

包むところを大切にし、安心・安全と美を追求した商品・サービスを提供することで社会に貢献します。

### Vision

包装の価値創出企業として、日本と世界へ新しい包装文化を発信します。  
朝日印刷グループで働く世界中のだれもの子供や孫の世代が「入社したい」と思うような会社を目指します。

### Value

私達は12の行動指針の元に、社会・お客様へ対して価値創出とミッションを果たします。

## 印刷包材事業を中心に3つの事業を展開

### 印刷包材事業

当社グループの主力事業  
医薬品市場、化粧品市場向け製品の  
製造・販売など

#### 【医薬品パッケージ】



一般用医薬品

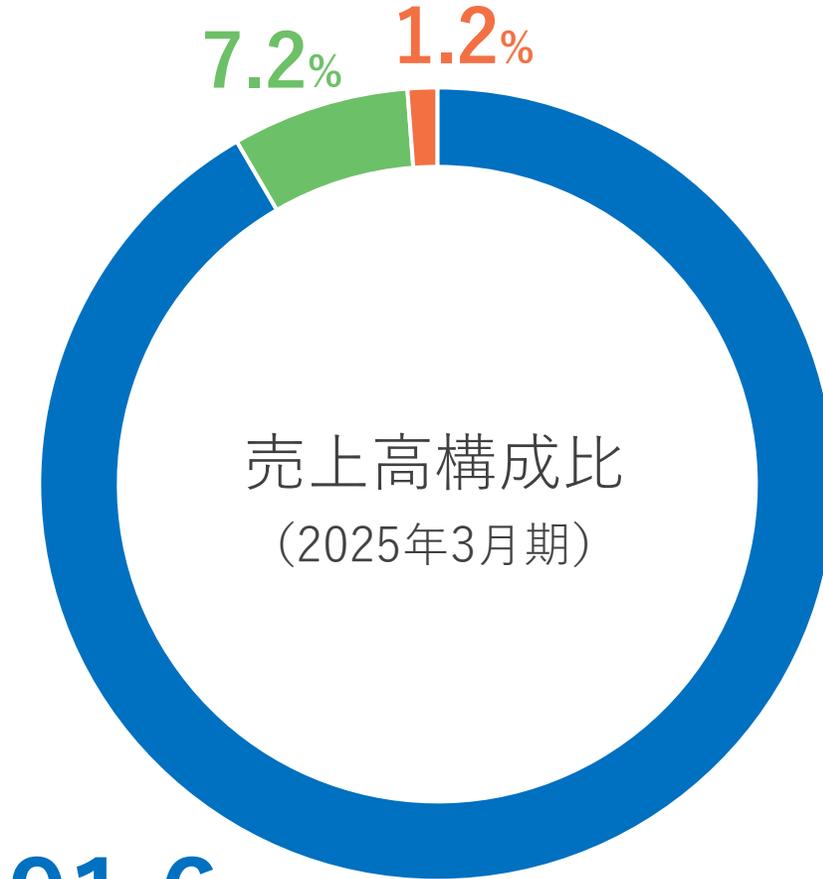


医療用医薬品

#### 【化粧品パッケージ】



7.2% 1.2%



91.6%

### 包材システム販売事業

包装設備の販売事業  
包装の前後工程の機械を含む  
トータルな提案での販売

#### 【導入実績】



CAP HOLDING TRAY

### 人材派遣事業

地元企業への職業紹介・労働派遣事業

Asahi Jinzai Service

▶グループ会社 朝日人材サービス株式会社

## 高い参入障壁と安定した生産体制により優位性を確立

### 高い参入障壁

#### 医薬品の一部として人命に関わる

- 法律等の厳しい規制
  - 薬機法やGMP省令に準拠した製造
  - 徹底した品質管理体制と品質保証体制
- 安定供給体制の構築
  - 医薬品の供給をストップさせない体制



医薬品  
包材

#### 高加飾で意匠性の高い包装物

- 高度な印刷・加工技術
- 色の再現性、正確性



化粧品  
包材

### 業界トップの生産体制

- 製造拠点の分散により安定供給が可能
- グループ会社の製造拠点も活かした業界トップの製造キャパシティ
- お客様に寄り添った営業活動や迅速な対応が可能な営業・販売体制

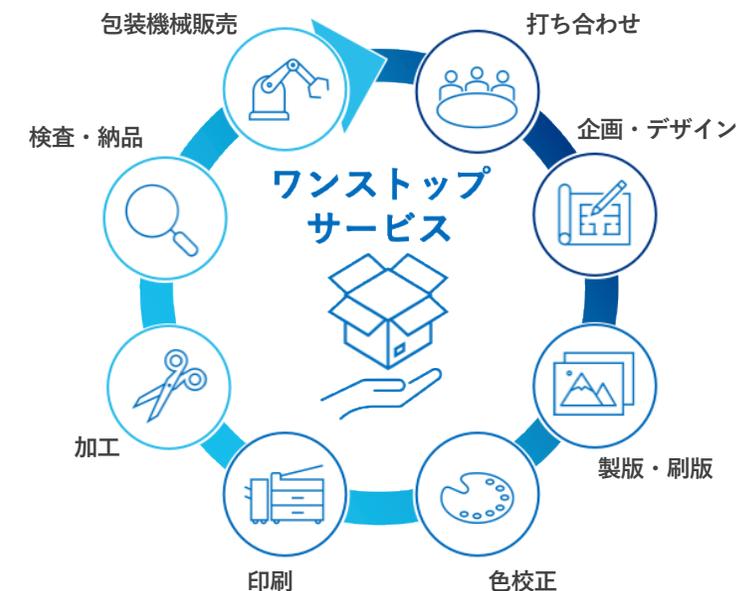
国内販売拠点  
20拠点

国内製造拠点  
5拠点



### ワンストップサービス

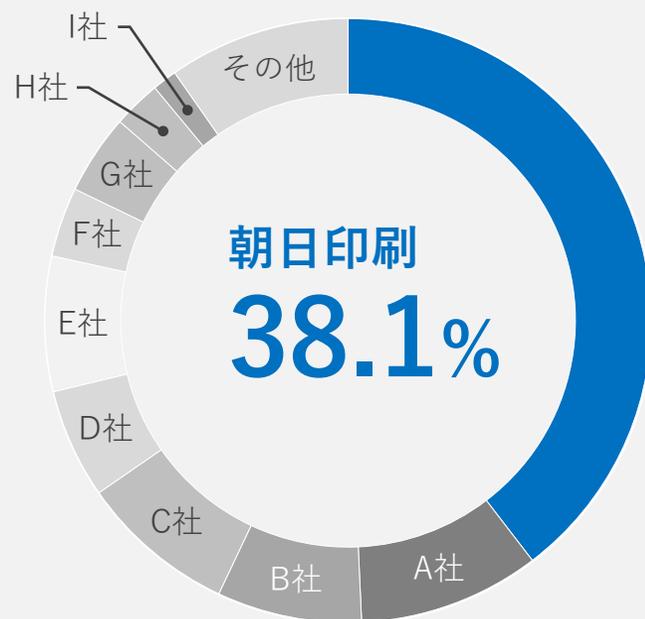
- 医薬品・化粧品包材の設計・デザインから製造・包装まで自社グループで効率的に提供可能



## 医薬品と化粧品の市場で国内トップシェアを誇る

- 偏りのない数多くの得意先との取引（トップの得意先で売上の3%程度）
- 全国20拠点の販売網による地域密着型の提案型営業

### 医薬品市場 向け印刷包材 ※



国内シェア  
**No.1**

※自社調べ

### 化粧品市場 向け印刷包材 ※



国内シェア  
**No.1**

※自社調べ

— 2 —

2026年3月期 第3四半期

決算概要



## 原材料価格の高騰、海外事業のマイナスなどにより、増収減益で着地

(百万円)	25年3月期 第3四半期	26年3月期 第3四半期	前期比	前期差	26年3月期 計画	進捗率
売上高	32,466	32,765	+0.9%	298	45,000	72.8%
営業利益	1,589	1,185	▲25.4%	▲404	2,250	52.7%
経常利益	1,665	1,483	▲10.9%	▲181	2,260	65.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,247	958	▲23.2%	▲289	1,800	53.2%
1株当たり 四半期純利益 (円)	58.72	45.36	▲22.8%	▲13.36	84.71	53.5%
1株当たり配当金	年間38円	年間38円 (中間18円+期末20円)				

**増収要因** 包装システム販売事業の好調により増収

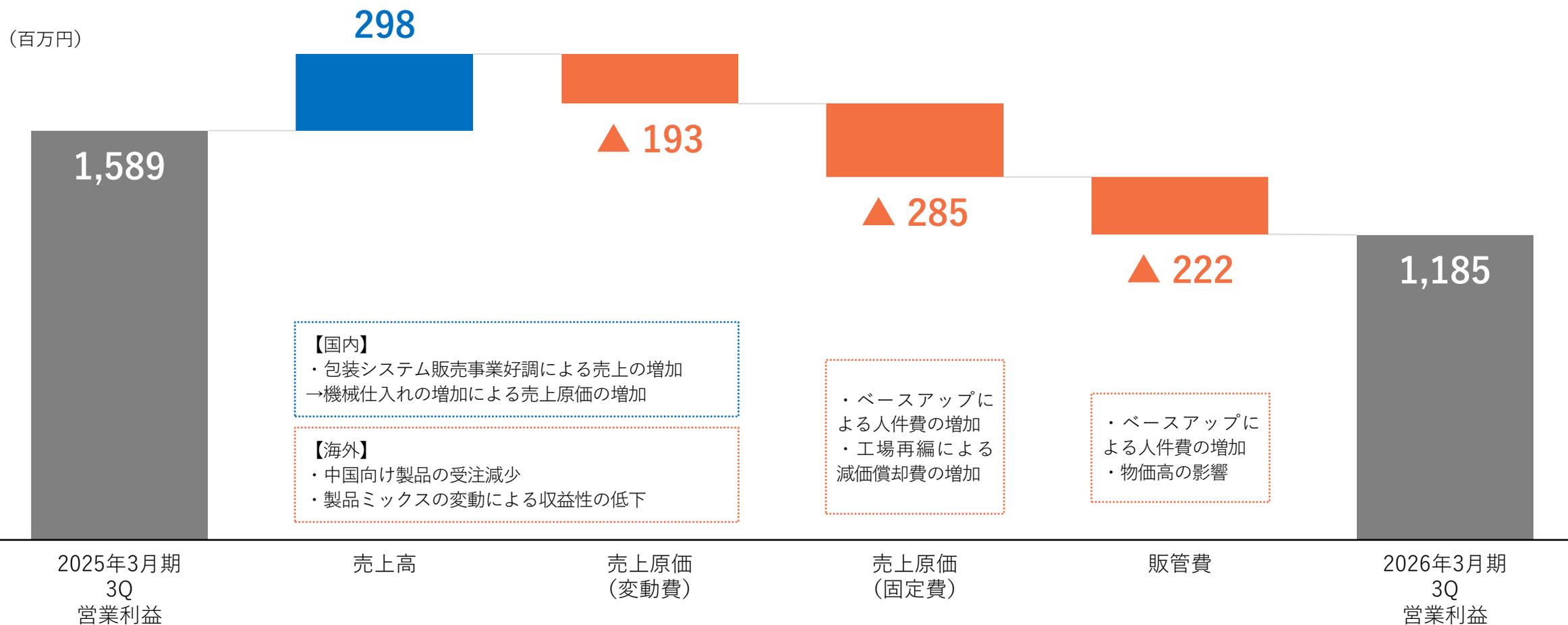
**減益要因** 原材料価格の高騰や物価高の影響に加え、海外において印刷包材事業の受注が減少したことなどにより減益

**純利益について** 政策保有株式の縮減を進めるものの、投資有価証券売却益の前年比減により四半期純利益は958百万円となった

**進捗率について** 上記の減益理由に伴い進捗率も低下。継続して受注拡大や生産性向上を進める

さらなる収益性の向上を目指し、**2027年3月期を初年度とする中期経営計画**を現在策定中 (2026年5月の開示を予定)

## 製造・販売固定費の増加に伴い減益



## 国内は売上高・利益ともに横ばいも、国外が減収減益

(百万円)	25年3月期第3四半期	26年3月期第3四半期	前期比	前期差
売上高	30,045	29,942	▲0.3%	▲103
セグメント利益	7,015	6,761	▲3.6%	▲254

### 国内

- 医薬品向け製品、化粧品向け製品ともに堅調な受注推移となり、売上高は横ばい
- 原材料をはじめとする仕入価格の上昇に加え、賃上げや工場再編に伴う減価償却費の増加等により固定費が上昇するも、生産性向上の取り組みを推進した結果利益も横ばい

原材料価格等の高騰に伴う価格改定の交渉を開始

### 国外

- インドネシア向け製品の好調
- 前期好調であった中国向け製品受注の減少等、製品ミックスの変動により減収減益

新規受注獲得に向け、日本と連携した営業活動、マレーシア国外への拡販を強化

## 売上高、セグメント利益ともに前年同期比大幅増

(百万円)	25年3月期第3四半期	26年3月期第3四半期	前期比	前期差
売上高	2,019	2,440	+ 20.8%	+ 420
セグメント利益	332	404	+ 21.7%	+ 72

- 包装機械の提案に加え、前工程・後工程も含めたトータル提案が奏功し大型案件の受注が増加
- 省人化・省力化ニーズの高まりを背景とした好調な受注推移により、前年同期を大きく上回る増収増益



**印刷包材事業に次ぐ第2の事業としてより一層の成長を見込む**

## 売上高・利益ともに横ばい

(百万円)	25年3月期第3四半期	26年3月期第3四半期	前期比	前期差
売上高	400	382	▲4.5%	▲18
セグメント利益	99	100	+0.7%	+0

- 派遣稼働人数が減少した一方で、派遣単価改定の寄与により、売上高、セグメント利益ともに横ばい



当社グループの強化や地元企業への貢献を目指す

## 借入金返済による、現預金の減少

(百万円)

■ 資産	25年3月期	26年3月期 第3四半期	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>29,578</b>	<b>26,457</b>	<b>▲3,121</b>
現預金	10,271	6,686	▲3,585
売上債権	14,905	14,609	▲296
棚卸資産	3,519	3,812	+293
<b>固定資産</b>	<b>40,884</b>	<b>41,189</b>	<b>+305</b>
有形固定資産	32,447	32,459	+12
無形固定資産	2,420	2,258	▲162
投資その他資産	6,017	6,470	+453
<b>資産合計</b>	<b>70,462</b>	<b>67,646</b>	<b>▲2,816</b>

■ 負債	25年3月期	26年3月期 第3四半期	前期末比
<b>流動負債</b>	<b>14,419</b>	<b>12,773</b>	<b>▲1,646</b>
仕入債務	7,062	6,300	▲762
短期有利子負債	3,915	2,891	▲1,024
<b>固定負債</b>	<b>20,471</b>	<b>19,635</b>	<b>▲836</b>
長期有利子負債	17,619	16,970	▲649
<b>負債合計</b>	<b>34,890</b>	<b>32,409</b>	<b>▲2,481</b>

### ■ 純資産

<b>純資産合計</b>	<b>35,572</b>	<b>35,237</b>	<b>▲335</b>
--------------	---------------	---------------	-------------

<b>自己資本比率</b>	<b>48.6%</b>	<b>50.6%</b>	<b>+2.0pt</b>
---------------	--------------	--------------	---------------

— 3 —

TOPICS



## 朝日品質を世界へ

厳格な管理が求められる

医薬品・医療機器パッケージのために、

新工場では日本と同等の品質管理体制、製造環境を実現



新工場「イスカンダル・プテリ工場」

### 新工場の3つの強み

～朝日品質のグローバル展開～

#### 1. 高度な衛生管理

衛生管理ゾーニングや入室時のエアシャワー導入など、衛生環境の整備により日本と同等の品質を担保

#### 2. 信頼を支える色の再現性

最新のカラーマネジメントシステムにより、迅速な調整と安定的な色再現が可能

#### 3. 利益率を高める生産効率

省力化設備がもたらす生産効率の向上が、コスト競争力と営業利益の拡大を実現

目的

ステークホルダーとの接点をさらに広げ、  
当社への理解を深めていただくため

発信内容

決算資料や適時開示だけでは伝えきれない  
「事業の背景」「現場の取り組み」「数字の裏側」など

noteに加えXでも情報を発信中。  
ぜひご覧ください。



IR note、はじめます。

朝日印刷株式会社  
(東証スタンダード・3951)

note



[https://note.com/asahipp\\_3951](https://note.com/asahipp_3951)

X



[https://x.com/asahipp\\_3951](https://x.com/asahipp_3951)

— 4 —

2026年3月期

業績予想・成長戦略



(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差
売上高	43,945	45,000	+2.4%	+1,054
営業利益	2,076	2,250	+8.4%	+173
経常利益	2,165	2,260	+4.4%	+94
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,704	1,800	+5.6%	+95
1株当たり 当期純利益 (円)	80.23	84.71	+5.6%	+4.48

- 包装システム販売事業及びラベル事業の売上増加
- 生産の効率化により売上原価低減

売上は概ね想定通りに推移。一方、収益進捗は想定を下回る水準にあり、足元の傾向は通期も続く見込み。

収益面では第3四半期を底として、第4四半期以降は一定の改善を見込んでいる。

AX2024の完遂と次期中期経営計画の土台作りを推進する1年に

AX2024 + 1

中期経営計画期間を1年延長

5つの戦略の推進を通じて  
明らかになった  
**AX2024の未達成施策を完了**

原材料価格の高騰をはじめとする  
事業環境の急激な変化に対応し  
**収益体制の再構築を推進**

## 収益体制の再構築に向けて事業と組織の整備を推進

### ①収益構造改革

#### 事業ポートフォリオの再構築

- 包装システム販売事業の拡大
- ラベル事業の拡大
- 海外事業の拡大

#### 印刷包材事業の構造改革

- 生産性の向上
- 棚卸資産の最適化
- 価格の適正化

### ②環境課題への対応

#### 地球環境への対応により 持続可能な成長を実現

- SBT認定の取得を推進
- アサヒスマートカラー※の拡販
- 環境に配慮した素材・原料を使用した新製品の開発
- プラスチック使用量の削減

### ③体制の整備

#### 事業改革を可能とする組織への転換

- 組織構造の最適化とコミュニケーションの促進
- 新たな挑戦を促進する、チャレンジ文化の醸成

## 事業構造の改革と成長分野への集中により収益性向上を目指す

### ■ 事業ポートフォリオの再構築 成長ドライバー領域へ経営資源を配分

#### 包装システム販売事業の拡大

背景

省人化ニーズのさらなる高まりが見込まれる



- 朝日オリジナルの半自動機械の展開
- 今後、省人化が進む領域・ニーズの把握と販売促進
- 事業の効率化を可能とする支援システム

#### ラベル事業の拡大

背景

他事業と比較しシェアが低く、拡大の余地が大きい



- 高機能ラベルの開発・導入と生産基盤の構築
  - ・RFIDラベル
  - ・極低温ラベル
  - ・偽造防止ラベル など
- デジタル印刷のニーズ発掘と販売促進

#### 海外事業の加速・拡大

背景

ASEAN地域の経済成長やさらなるシナジーの創出など、拡大の余地が大きい



- 新工場建設プロジェクトの遂行（26年度稼働予定）  
→2032年度売上75%UP（24年度比）
- グループ連携した営業提案活動によるシナジーの創出
- グローバルリーダーの育成

### ■ 印刷包材事業の構造改革 印刷包材事業における、収益性、効率性の改善へ

#### 生産性向上

さらなる省力化・少人化機械の導入

#### 棚卸資産の最適化

生産統制の強化による、リードタイムの短縮

#### 価格の適正化

新たな原価管理システムの導入による原価管理の強化

— 5 —

企業価値の向上に向けて

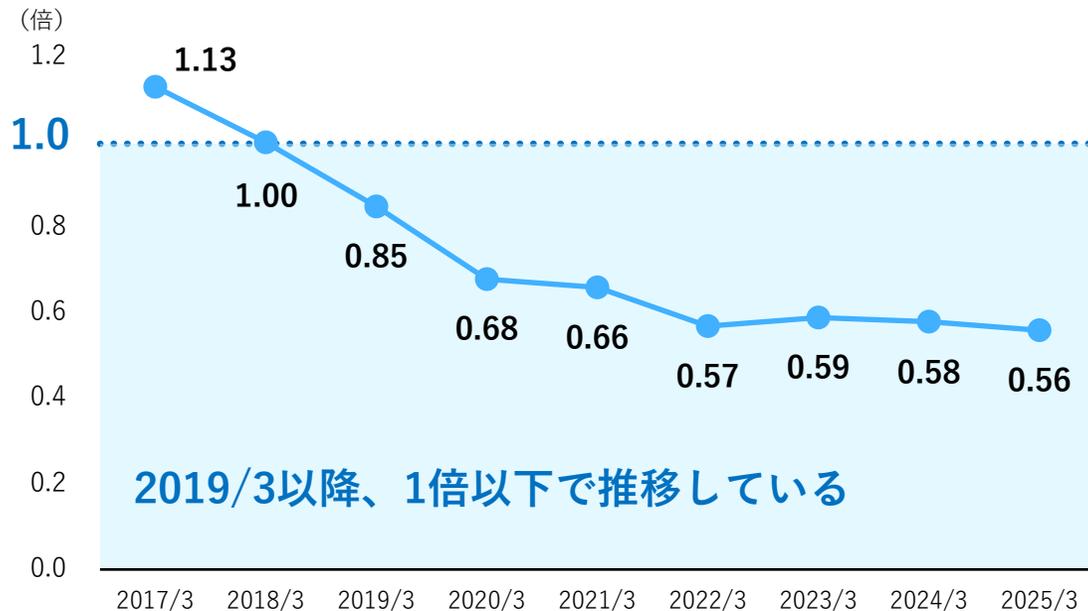


## PBR、PERともに低い水準にあると認識

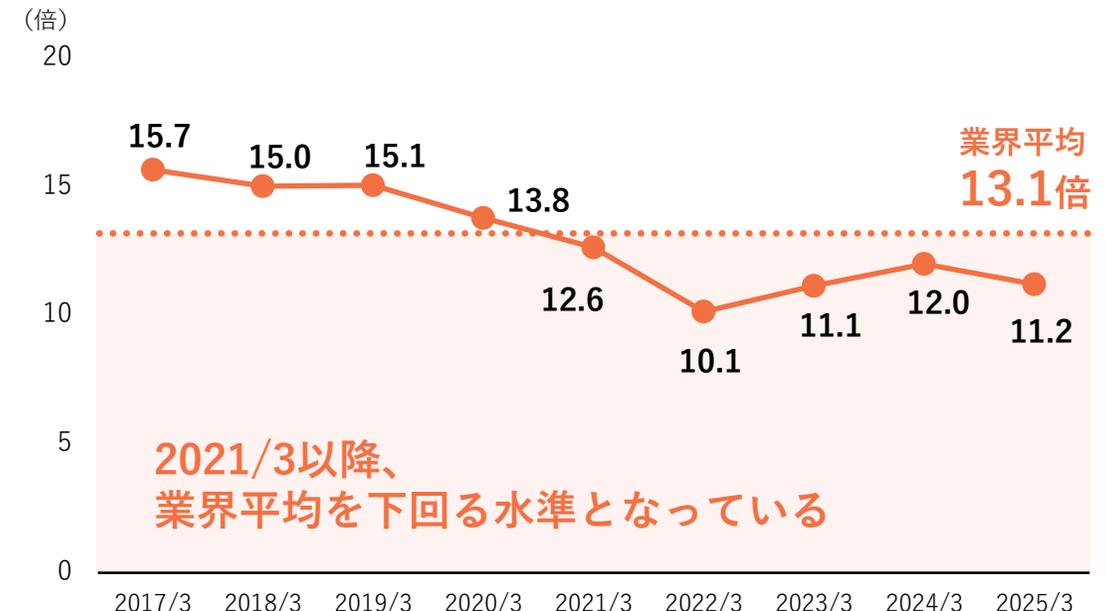
- 当社のPBRは年々低下し、2019年3月期以降、**1倍割れを継続**
- PBRの構成要素であるPERも低下しており、**当社の成長に対する期待度が低い状態**であると推察

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{PBR} \\ \hline \text{(株価純資産倍率)} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{PER} \\ \hline \text{(株価収益率)} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{ROE} \\ \hline \text{(自己資本利益率)} \\ \hline \end{array}$$

### PBRの推移

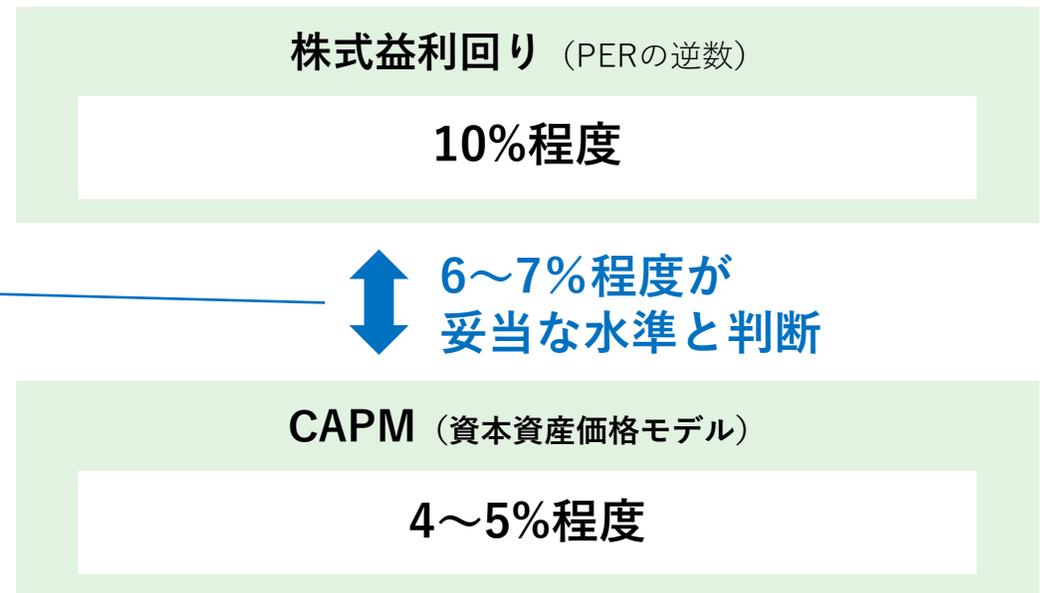
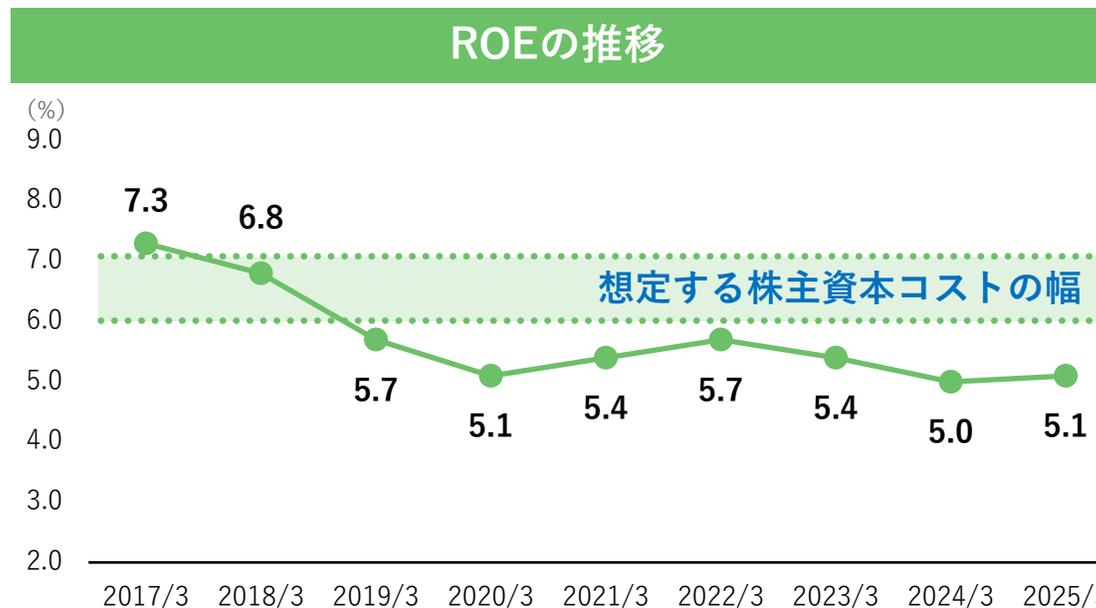


### PERの推移



## 現状のROEは株主資本コストを下回っている

- CAPMと株式益利回りに基づき、当社の株主資本コストは6～7%と算出
- 2019年3月期以降、ROEが株主資本コストを下回る水準で推移（PBRが1倍割れとなった時期と一致）

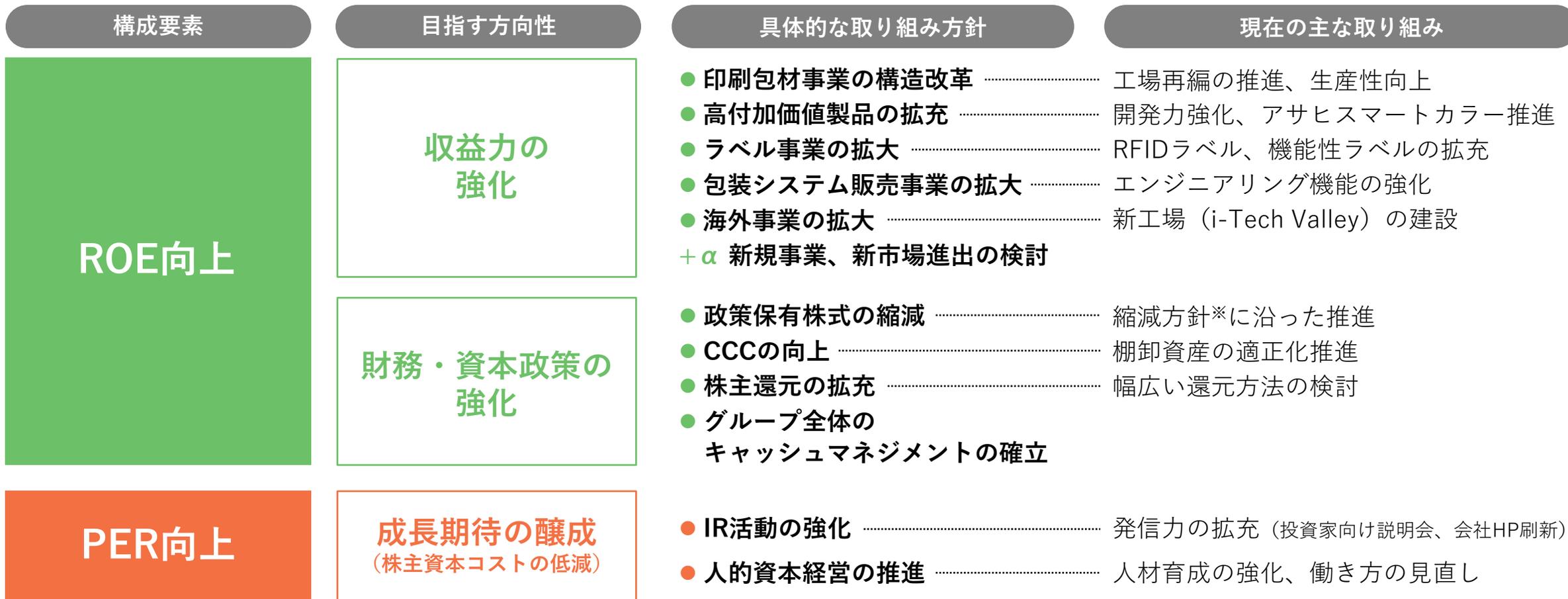


継続した増収傾向の中で、利益成長の停滞による利益率の低下と総資産の増加による回転率の低下がROEを押し下げる要因であると推察（財務レバレッジは2倍前後で安定的に推移し、適正な自己資本水準を維持）



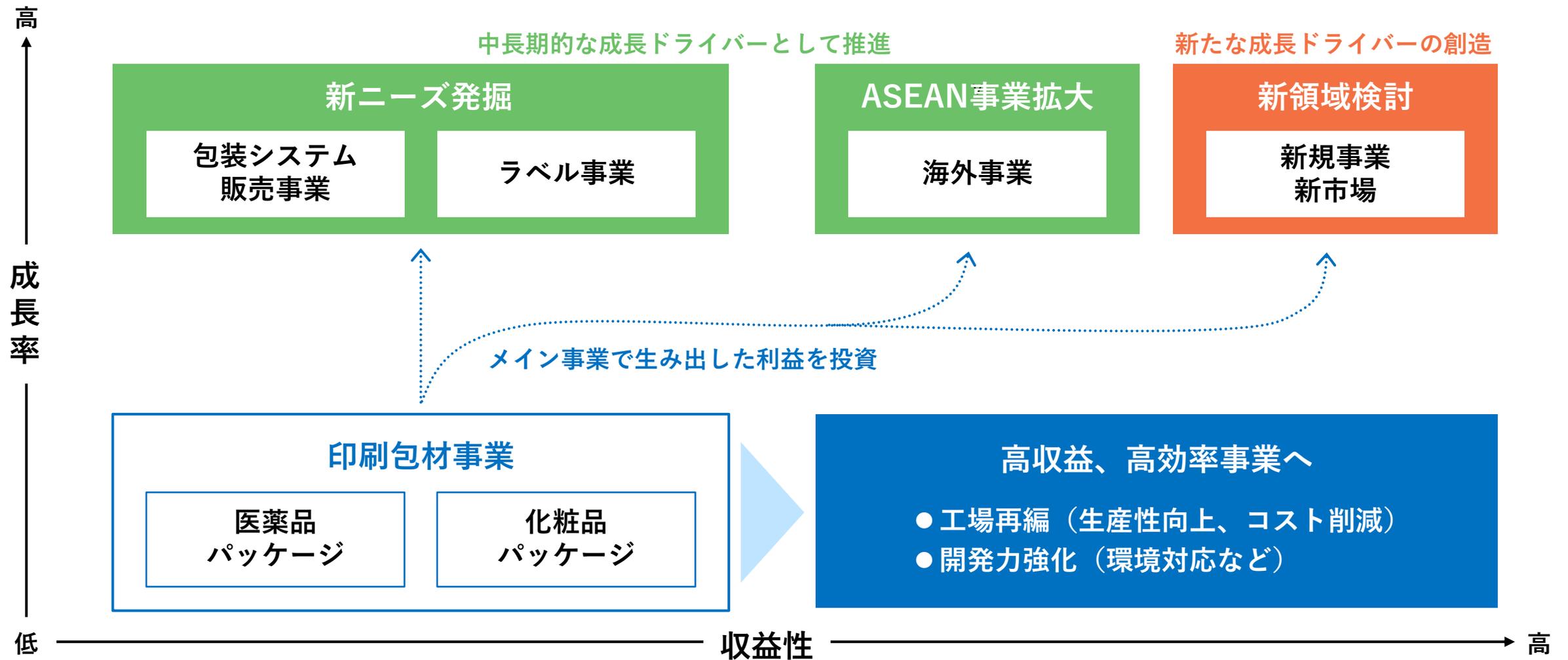
ROEの向上に向けて  
収益性とバランスシート双方の改善が必要

## PBR向上 = 企業価値の向上



※ 2024年11月11日付当社プレスリリース  
[「政策保有株式の縮減に関するお知らせ」](#)

## メイン事業の収益性向上と成長ドライバーへの投資・育成を推進



## 配当方針

- 安定的な配当の継続と業績に応じた成果の配分
- 連結配当性向「40%」以上の配当を実施
  - ・ 持続的な成長に向けた省力化・少人化への投資
  - ・ 包装システム販売事業、ラベル事業、海外事業への成長投資
  - ・ 財務健全性の確保
  - ・ 株主還元の充実

### ■ 連結配当性向 40%以上

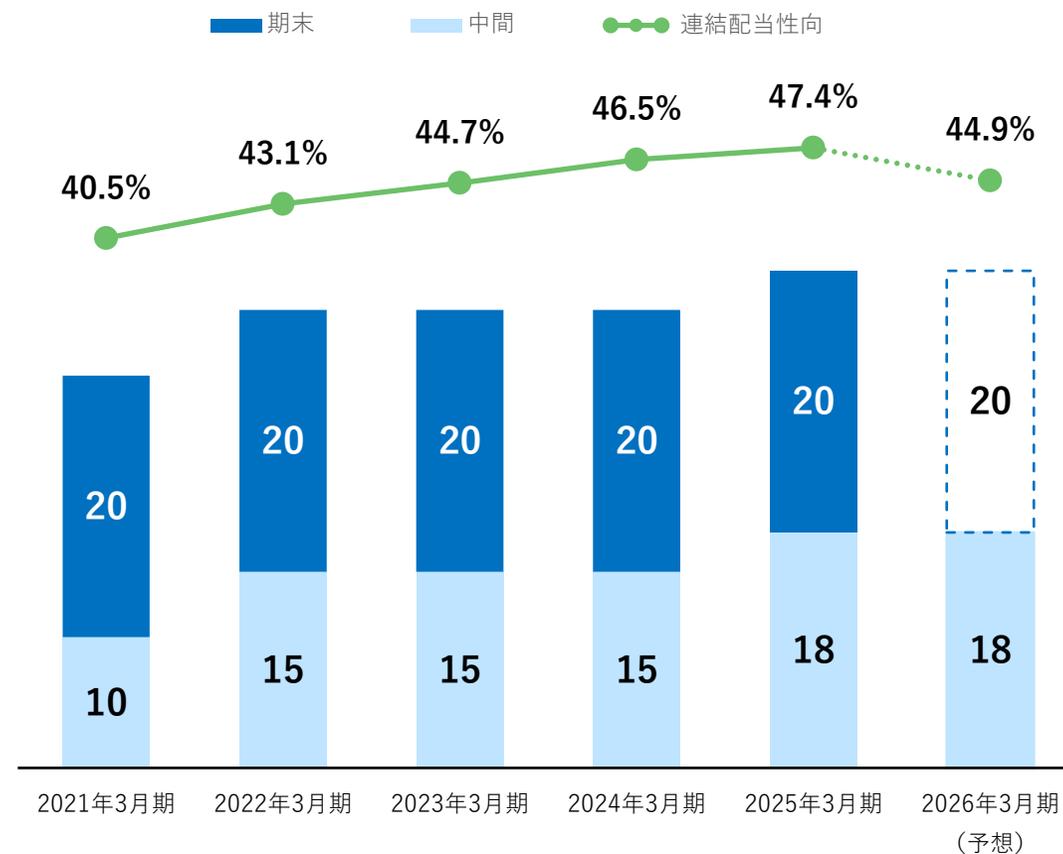
2024年3月期 46.5% / 2025年3月期 47.4%

### ■ 2025年3月期 総還元性向 53.0%

### ■ 2026年3月期 配当金

1株当たり年間 38円 (予定)

## 1株当たりの配当金額推移 (円、%)



2025年度～2026年度の2年間で

約 **10** 億円

の自己株式取得を計画

## 2025年度 取得概要（7月22日開示）

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するとともに、資本効率の向上、株主還元の充実を図るため、2025年7月22日開催の取締役会にて下記の通り自己株式の取得に係る事項について決議しました。

- 取得期間：2025年7月23日～2026年3月31日
- 取得価格の総額：5億円程度
- 取得し得る株式の総数：57万株  
（自己株式を除く発行済株式総数に対する割合2.68%）

➡ 累計566,300株を取得し、2025年度の取得は2026年1月15日に終了

配当政策とあわせ、2026年3月期の総還元性向は70%程度を見込む

